

外来生物の早期発見・早期駆除

両総管内では、近年外来生物による被害が拡大し、生態系のみならず農業施設の運転や水稲経営に甚大な被害を及ぼしております。両総土地改良区、両総用水事業推進協議会では、外来生物の徹底的な駆除技術の開発を国や千葉県に対し要望しております。また、地域全体で防除対策に取り組むことにより被害を軽減させることができます。

ナガエツルノゲイトウ



オオフサモ



これらの外来植物の繁殖は著しく、河川や水路一面に繁茂してからの駆除には大変な労力と経費を要することになります。

生体を発見次第除去し、その場で袋詰めすることが有効な駆除手段です。

小さな群落でも発見しましたら、当土地改良区へお知らせいただけると幸いです。関係行政機関と協力し、対応いたします。

また、上記外来植物以外では、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の被害が著しく、被害報告は年々増加しております。

スクミリンゴガイの特性としては、水田や水路で越冬し、気温上昇とともに活動を始めます。定植直後の水稻苗を浸食し、また、稲や水路の壁にピンク色の卵を産みます。

上記外来植物同様、生体を発見し次第、除去することが有効な駆除手段です。

また、水路の泥上げ・冬期の耕うんなどが有効とされる防除対策です。

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

